

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/09/01 ～2017/09/30)

ヨエンスーについてちょうど1ヶ月が経ちました。約9ヶ月間、東フィンランド大学で言語学や教育学についてしっかりと学んでいきたいと思います。

1. 勉学の状況

今期は6つの授業を取ります。本当はもう少し取るうと思っていたのですが、人数制限や登録期間の関係であまり取れませんでした。。授業によって登録期間が違うので、早めに登録しましょう。あとから直接教授にメールをすればなんとかなる様ですが、こちらの大学の授業は、曜日が固定されておらず、第1回は○日の○時～・第2回は△日の△時～のような形になります。そのため授業が被ってしまうこともありましたが、友達に後で授業内容を聞いたりなどすることで乗り切っています。

ここでは9月中に受けた授業のうち2つの授業について紹介したいと思います。

◎Finnish Educational System and Organisation

この授業はフィンランドの教育についての授業でした。計3回の授業で1回が約4時間あったので最初は不安でしたが、ちょうど半分の時間でコーヒーブレイクをくれたので、最後まで集中して聞くことができました。教授はとてもゆっくり英語を話してくれたので、理解しやすかったです。(催眠効果もありましたが。)この授業での新しい発見は、フィンランドでは教師と親のつながりが良い意味で強いということと、新カリキュラムが日本では考えられないようなものだったということです。前者について、フィンランドでは親と教師がネット上で気軽にやり取りができるplatformがあるそうです。教授に小学生のお子様がいるそうで、実際にそのサイトを見せていただきました。生徒が悪さをした時も教師側から連絡が行くこともあるそうです。また、”How do we evaluate our teachers? We never speak of this. It is irrelevant in our country. Instead, we discuss: How can we help them?”というチラシを見せてもらい、日本とは教師の位置づけが全く違うことを痛感しました。後者については、新カリキュラムで”phenomenon-based learning”が取り入れられることなどが述べられていました。”phenomenon-based learning”とは、テーマ別学習のことで、教科の垣根を超えてあるテーマについて自分たちで学んで行くというものです。これは必ずしも教室内で行われるものではなく、例えば森の中を4、5時間探索することもあるそうです。「将来自分で生きて行くために、生徒は自分自身の学びに責任を持たなければならない」と教授が言っていて、これがフィンランド教育において”自主性”が強調されている理由なのだなと思いました。

◎History of English

この授業は名前の通り、英語の歴史についての授業です。今現在の英語がどのような経緯を辿ってそのようになったのかについて学んでいます。千葉大の授業内で英語史については多少学んでいたのですが、この授業では英語史についてだけで12回も授業をするのでかなり細かく説明をしており、固有名詞がなかなか覚えられません。この授業を取った理由としては、英語の成り立ちや語源を知ること、教師になった時に生徒が覚えやすくなるような説明ができるで

はないかと考えたからです。今は主にOld Englishについて学んでおり、5世紀半ばから12世紀に使われていた言語を音読する機会などがあり、とても面白いです。この授業はテストがあるそうなので、固有名詞の暗記を頑張ります... (笑)

2. 生活の状況

◎ヨensuuについて

フィンランドは森と湖の国と聞いていましたが、ヨensuuは田舎の街で、少し中心から外れると森しかありません(笑)自分は自然が好きなので、よくランニングをしながら探索をしています。最近だとハリネズミのような動物に遭遇しました。

現在の気温は最高気温が10度を下回ることが多くなってきており、服装は冬の格好をしています。最近木の葉っぱが紅葉してきているのですが、完全に気温と合っていません。

施設については、スーパーの数がとても多く、住んでいるところから1km圏内に4つスーパーがあり、スーパーの目の前にスーパーがありました。また、お金の節約のためにsecond-hand shopによく行きます。とりあえずsecond-hand shopで探し、目当ての物がなかったら他の店に行くようにしています。

◎遊びについて

今月は、イベントに参加したり、新しくできた友達と遊んだり、地元のサッカーチームの練習に参加したりと、とても充実していました。まず、私が行ったイベントのうちの1つを紹介します。Get to Know Each Other Partyという名前で、留学生やフィンランド人の学生が参加でき、新しい友達を作るいい機会でしたので参加しました。クラブで行われ、みんなかなりテンションが高ったため、知らない人ともいつも以上に話すことができ、たくさん友達を作ることができました。こういう雰囲気のパティーは初めてで多少戸惑いもありましたが、楽しむことができ友達もできたのでOKです。

そこで知り合ったフィンランド人の友達に誘われて、その人のサマーハウスにお邪魔しました。サマーハウスとは夏に利用する別荘のことで、多くのフィンランド人が持っているそうです。フィンランド人1人・ベルギー人1人・日本人2人で行きました。彼のサマーハウスはおしゃれなログハウスで、目の前に湖があり、サウナまであるという完璧な場所でした。そこでは、ベリーを摘みそれを使ってパイを作ったり、念願のサウナに入った後に湖に飛び込むことなどもしました。その時気温が10度くらいでただただ寒かったのですが、またサウナに戻ると最高に気持ちいいです。とてもいい思い出になりました。

大学には部活がなく、サッカーをする場所を探していたのですが、留学生も参加できるサッカーのグループがあり、参加させてもらいました。そこで知り合った方が地元チームのコーチで、そのチームに誘っていただいたので、こっちで知り合った日本人の友達と一緒にサッカーで国際交流しています。サッカーウェアとシューズを持ってきた甲斐がありました。

◎住居について

accommodationについてはいくつか問題がありました。まず、住む場所が決まらない問題です。私がaccommodationを申し込んだあと宿泊施設の会社からメールが来ており、「この夏の間はofferを送ります」と書いてありました。8月になってもメールが来ないため流石に怖くな

り（出発が8/31だったので..）連絡を取ったところ、申し込んだ人がかなり多く、あふれてしまう可能性があるとのことでした。そして結局部屋の空きが出て住む所が決まったのが出発の約1週間前でした。しかも元々申し込んでいた場所とは違く、金額も少し高めの家具なしの部屋でした。次の問題は、私が到着した曜日が土日で宿泊施設の会社が営業しておらず、鍵を入手できなかったことです。本来であれば留学生一人一人についてくれるチューターさんがあらかじめ鍵を受け取っておいてくれるのですが、先ほどのバタバタで連絡するのを忘れてしまい、それもありませんでした。結局2日間ホテルに泊まり、約150€使ってしまいました。本当にもったいなかったです。これからは早め早めに行動していきたいと思います。最後は問題というわけでもないのですが、部屋が3つなので3人で生活するのかなと思ったのですが、なぜかルームメイトが私以外に4人おり、その4人が1つの部屋で住んでいました。おそらく他3人の住む場所が決まるまで泊めてあげていたのでしょう。（今は、私とインド人とフィンランド人の3人です。）その4人はインド人とパキスタン人で、始め彼らの英語が全く聞き取れずなかなかその輪に入ることができませんでした。日が経つにつれて彼らの訛りにも慣れて会話できるようになりました。（まだ聞き取れないことは多々あります。）

しかし、悪いことだけでもありませんでした。私が今住んでいるところから歩いて3分ほどの所にスーパーがあったり、ルームメイトはみんなとても優しく、インド料理を振舞ってくれたりもしました。最終的にこのaccommodationに決まってよかったなと今は思います。



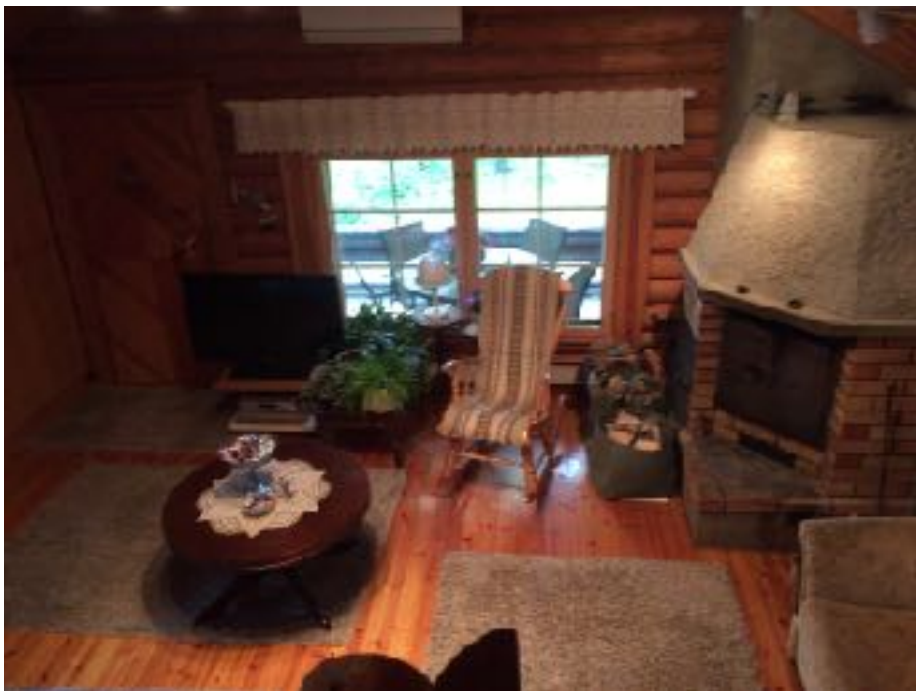
↑東フィンランド大学

校舎の中もかなりおしゃれです！



↑日本人の誕生日パーティー

私は握っただけなのですが、とても美味しかったです！外国人にはツナマヨが人気だった気がします。



↑友人のサマーハウス↓
何から何まで本当におしゃれで、
湖も最高に綺麗でした！

